

社会科

1 令和5年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

4年生の正答率は目標値と同じくらいで、5・6年生の正答率は目標値を概ね大きく上回る結果となった。学習内容は概ね定着しているといえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、学習状況は良好と言える。4年生は目標値を下回っているため、知識・技能の定着が課題といえる。

思考力・表現力・判断力等

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、4年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

主体的に学習に取り組む態度

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、4年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 高学年は問題解決的な学習を中心にした授業展開を重視し、学習内容を定着させることができた。
- 中学年は問題解決的な学習や調査活動を行っているが、学習内容の定着に課題がある。知識・技能の定着を図る時間を確保することや活動の工夫をする必要がある。

思考力・表現力・判断力等

- 自分の考えを表す活動を取り入れることで、社会的な事象について考察し、表現する力が付いてきている。
- 社会的な事象について、示されている写真や年表などの資料を正しい視点で読み取ったり、相互に関連付けて活用したりする学習には一定の課題がある。

主体的に学習に取り組む態度

- 問題解決的な学習を計画し、生活や経験に結び付けた振り返りを行うことで関心を高め、主体的に学習に取り組むことができた。

3 授業改善の骨子

- (1) 様々な視点で社会的な事象についての資料を読み取り、資料を正しくとらえることで学習内容の確実な定着を図る。 【知識・技能】
- (2) 調べて分かったことやこれまで身に付けてきた知識・技能を活用し、それぞれを関連付けて表現する学習を設定する。 【思考・判断・表現】
- (3) 社会的な事柄に対して、問題を見付け、それを解決していける問題解決的な学習を設定したり、学習や生活場面に結び付けて考えられるような学習計画を立てたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】

社会科

プラン① 様々な視点で社会的事象についての資料を読み取り、資料を正しくとらえることで学習内容の確実な定着を図る。

- ◎ 個人の地図帳、副読本、資料集、及び図書室やインターネットなどを活用して、社会科の時間に限らず他教科等においても取り上げることで、地図や地名に関する理解を深める。
- ◎ 文章や写真、表やグラフなどの統計資料や年表などを積極的に活用し、資料の正しい見方を身に付けるとともに、そこから分かることを交流したり、手順や工程など、複数の資料や写真を関連付けて考えたりすることで、社会的事象についての考えを深め、学習内容を定着させる。

中学年

- ・ 地図記号や方位など、基本的な地図に関する知識を確実に身に付けさせるため、地図帳を活用したり、町探検で分かったことを絵地図に描き表したりする活動を設定する。
- ・ 方位磁針の使い方を身に付けるために、地図上で実際に方位磁針を使い、身近な建物や場所の方位を調べる体験的活動を設定する。
- ・ 社会的事象を比較したり関連付けたりする力を伸ばすために、スーパーマーケットや工場の工夫を調べる活動では、何のための工夫か考えたり、視点に沿って分類したりする活動を取り入れる。
- ・ 見学して分かったこと、資料を見て気が付いたことや考えたことは、ペアやグループで視点に沿っているか吟味することで資料の正しい見方を身に付けさせる。
- ・ 「わたしたちの大田区」では、身近な地域や区の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解できるよう、調査活動や具体的資料を用いた活動を設定する。
- ・ 「わたしたちの東京」では、資料を基に東京都の地形や土地利用の様子などの地理的条件や伝統、世界とのつながりなどの視点をもって調べ、東京都の特徴について多面的に捉える活動を設定する。
- ・ 社会科見学で調べたことや地図と写真、複数のグラフなど、複数の資料を関連付けながら読み取れるよう、資料を読み取るための視点を考えさせながら活動できるようにする。

高学年

- ・ 日本地図と世界地図、地球儀を活用し、意図的に地名や土地の様子を調べたり、他教科での調べ学習などをしたりすることで、学習内容と地図の使い方についての定着を図る。
- ・ 見学して分かったことや資料から読み取った事柄について、既習事項や生活経験と関連付けながら比較し、自分の考えをペアやグループで情報交換して考えを共有し、学習内容の定着を図る。
- ・ 農業、水産業、工業、情報産業、環境を守る仕事など、それぞれの分野で仕事に従事している人の工夫や努力について、複数の文書、写真資料や表、グラフなどの統計資料を基に具体的に知ることができるようにする。また、資料から傾向や注目したい事柄などを考えさせるようにする。
- ・ 実体験が伴わない事柄の学習については、例えば、稲作や自動車生産について、資料を基に米の成長や車の生産過程の場面を並び替えたり、収穫、完成までの過程を簡単に年表形式で表したりすることで、知識の獲得を図る。また、そこからそれぞれを関連付け、複数の資料のつながりを考えながら調べることで、学習内容の理解を深められるようにする。
- ・ 歴史単元においては、遺跡や旧都、歴史上の人物の生没地や合戦地などの地名が出てきた際には、地図帳で位置を確認し、印を付ける活動を習慣化する。
- ・ 資料集の想像図や絵画資料を読み取る際には、人々やものの様子、前の時代との変化等の視点をもたせ、意見を交流することで多面的な見方ができるようにする。
- ・ 2つの資料を比較、関連しながら多面的に時代や事象の特徴を考えたり、表現したりする活動を取り入れる。(例) 貴族と武士の暮らし、文明開化前後の違い、大日本帝国憲法と日本国憲法の性質

社会科

プラン② 調べて分かったことやこれまで身に付けてきた知識・技能を活用し、それぞれを関連付けて表現する学習を設定する。

- ◎ 調べ学習や社会科見学を通して得た情報や知識について、ワークシートや小テスト等を活用し整理することで、確実に身に付けられるようにする。
- ◎ 単元のまとめには、「学習したことの報告会」や「新聞作り」「報告書作り」などの表現活動を取り入れ学習内容を振り返ることで、情報や知識を活用したり、自分たちの生活に結び付けた振り返りをしたりすることで学習を深められるようにする。

中学年

- ・ 見学やインタビュー活動を通して分かった商店や工場で働く人の工夫や努力について、キーワードを用いて自分の言葉でノートやワークシートにまとめる活動を取り入れる。
- ・ つかませたい社会的事象を児童が自ら獲得できるようにスーパーマーケットや工場の見学、インタビュー活動等を行い、意見を交流し考えを表す活動を重視する。
- ・ 社会的事象を関連させたり分類させたりする力を身に付けるために、「安全なくらし」では「早く」「未然に」「協力して」などの視点を基に事故や火事を防ぐ工夫をまとめ、新聞作りや発表などの表現活動を工夫する。
- ・ 副読本や地図帳などの地形図から、土地の高さや土地利用の様子などの地理的条件を調べることで東京都の特徴について言葉で説明できるようにする。
- ・ 「住みよいくらし」では、地図帳でごみの処理や水の供給についての関連施設を調べ、ごみや水のルートをたどる活動を行い、地図から読み取った社会的事象について意見を交流することで多面的に見ることができるようになる。
- ・ 「昔のくらし今のくらし」では、六郷用水を開いた小泉次太夫吉次の功績を副読本等で調べ、簡単な年表資料を読み取る活動を行う。また、暮らしの様子や道具の移り変わりについて理解できるようにするために、「わたしたちの大田区」を中心に資料の活用を図る。
- ・ 学習の終末で自己の生活と結びつけて自分の考えを表せるよう、社会的な学習で使われる用語をおさえその言葉に即して表現できるようにする。

高学年

- ・ 学んだことをまとめる際には、単元の学習で獲得した語句や名称を使って表現できるようにするとともに、伝わりやすい表現やよりよいまとめ方について話し合う。
- ・ 「住みよいくらしと環境」では、気候や地形条件の異なる地域の暮らしや様子について、写真資料や文書資料、グラフなどから対比させ、それぞれの地域のよさを自分なりにまとめた上で意見を交流することで、社会的事象を多面的に考察する。
- ・ 用語の理解を定着させるため、日本や日本と関わりのある国の位置について「海洋」「大陸」「緯度」「経度」「赤道」等の用語を活用して説明する活動を取り入れる。その際は、例えばレポートや報告会などの表現活動を通して、児童が相互に学び合えるように工夫する。
- ・ 歴史単元においては、歴史上の人物の功績や願いと世の中の様子を関連付けながら調べ、まとめることで、偉人の働きが分かるようにする。
- ・ 日本国憲法の本質や三権分立、選挙の仕組み、国連の機関や世界の国々等について、語句のみならず、図を活用してまとめることを通して体系的に理解し、知識の獲得を図る。
- ・ 公民的資質の基礎を養うため、「選挙に必ず行って政治に参画する」「ユニセフ募金を通して国連事業について調べる」「世界遺産を守る」など具体的に自分ができることを考え、表現する場を設定する。

社会科

プラン③ 社会的な事柄に対して、問題を見付け、それを解決していける問題解決的学習を設定したい、学習や生活場面に結び付けて考えられるような学習計画を立てたいする。

- ◎ 資料や課題提示を工夫し、学習問題や学習計画を立てていく学習を行うことで、問題解決的な学習を身に付け、これからの学習や生活に生かせるようにする。
- ◎ 単元の終末に、これまで学習したことに関連して、自分にできることを考えたり、社会的な事柄に対する自分の考えを示したりして、自らが主体的に考え、解決していけるような学習計画を立てる。

中学年

- ・ 社会的な事柄に対して、写真資料や生活経験などを基に話し合い、単元の学習問題を考える活動を取り入れた単元計画を立て、それを通して、自主的に課題を解決していく過程を身に付け、主体的な学びに結び付けられるようにする。
- ・ 火事や事故の防止、水の使い方、ごみ処理の仕方、災害時の行動について、単元の中で学習してきたことを活用し、これからの生活の中で自分たちにできることについて考える活動を通して、学習したことを実生活に結び付けられるようにする。
- ・ 店で働く人々や郷土に残る伝統・文化に対して、さらに関心をもって取り組んでいけるよう、学習の振り返りを活用し、もっと調べてみたいことや学びを深められたことについてまとめる活動を設定する。

高学年

- ・ 課題提示の仕方や資料の工夫をすることで、社会的な事柄に対して問題意識や関心を高め、調べたいことを考え、自分の学習問題を立てていけるようにする。
- ・ 食糧生産や工業、産業の情報化については、単元の終末で、学習したことを基にこれからの社会について自分の考えを表現する活動を設定し、学習したこととこれからの社会生活を結び付けて考えられるようにする。
- ・ 公民的分野については、暮らしと憲法や政治の仕組みがこれからの生活にどのように関わっていくのかを知り、自分の暮らしの中でどのように生かすことができるのかについて考える活動を設定する。
- ・ 歴史的な分野については、歴史上の人物の考え方や功績について考えたり現代の生活様式や文化と比較したりすることで、歴史上の事柄に対して主体的に自分の考えをもてるようにする。
- ・ 「世界の中の日本」では、国際社会の一員としての日本の役割について学習し、それを生かして、世界の人々とともに生きていくためにこれからの日本に大切なことについて、自分の考えをもち表現していく活動を設定する。